

# 史跡賀茂御祖神社境内

史跡賀茂御祖神社境内

2009 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所







# 史跡賀茂御祖神社境内

2009 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 序 文

歴史都市京都は、平安京建設以来の永くそして由緒ある歴史を蓄積しており、さらに平安京以前に遡るはるかなむかしの、貴重な文化財も今なお多く地下に埋もれています。財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、これまでに多くの遺跡の発掘調査を実施し、地中に埋もれていた古都の過去の姿を多く明らかにしてきました。

これらの調査成果は現地説明会、京都市考古資料館での展示、写真展あるいはホームページを通じて広く公開し、市民の皆様へ京都の地域の歴史に対し関心を深めていただけるよう努めております。

当研究所では、平成 13 年より個々の発掘調査の概要をまとめた報告書を刊行しており、その成果を公表しています。

このたび、整備事業にともなう史跡賀茂御祖神社境内の発掘調査成果をここに報告いたします。本報告書の内容につきましてご意見、ご批評をお聞かせいただけますようお願い申し上げます。

末尾ではありますが、当遺跡の調査に際してご協力ならびにご支援たまわりました関係者各位に厚く感謝し、お礼申し上げます。

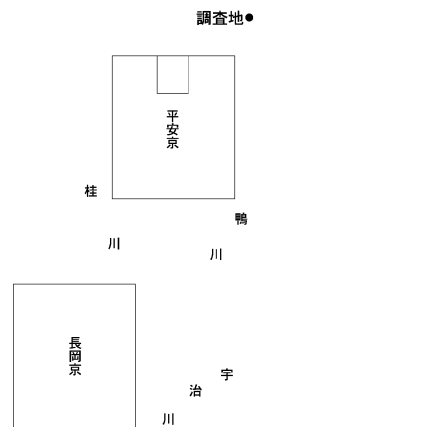
平成 21 年 3 月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

# 例 言

- 1 遺 跡 名 史跡賀茂御祖神社境内
- 2 調査所在地 京都市左京区下鴨泉川町地内
- 3 委 託 者 宗教法人 賀茂御祖神社 代表役員 新木直人
- 4 調査期間 2008年10月28日～2008年12月17日
- 5 調査面積 121 m<sup>2</sup>
- 6 調査担当者 小松武彦
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「相国寺」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系VI（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 通し番号を付し、遺構種類を前に付けた。
- 12 遺物番号 遺物の種類別に通し番号を付した。
- 13 本書作成 小松武彦
- 14 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、資料業務職員および調査業務職員があたった。



(調査地点図)



# 目 次

1. 調査経過	1
2. 遺 構	3
(1) 層序	3
(2) 遺構	5
3. 遺 物	7
(1) 土器類	7
(2) 瓦類	8
4. ま と め	11

# 図 版 目 次

図版1	遺跡	1	1区全景（北西から）
		2	1区井戸1（北西から）
図版2	遺跡	1	1区SX 2（東から）
		2	1区掘下げ部（北から）
図版3	遺跡	1	2区全景（東から）
		2	2区道3（北東から）
図版4	遺物		出土遺物

# 挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：5,000）	1
図2	調査区配置図（1：250）	2
図3	調査前全景（東から）	3
図4	調査風景（南東から）	3
図5	1区遺構実測図（1：80）	4
図6	SX 2実測図（1：20）	5
図7	1区掘下げ部遺構実測図（1：60）	5

図8	2区遺構実測図（1：50）	6
図9	土器実測図（1：4）	8
図10	軒瓦拓影・実測図（1：4）	9
図11	「賀茂祭舗設図」（江戸時代）	12

## 表 目 次

表1	遺構概要表	3
表2	遺物概要表	7
表3	土器観察表	10

# 史跡賀茂御祖神社境内

## 1. 調査経過

この調査は境内整備事業に伴う第8次調査である。調査地は賀茂御祖神社楼門の南東に位置する船島とその西側である。この船島では平成3年度と平成19年度に発掘調査が実施されている。

今回の調査は、平成19年度発掘調査で検出した石組み井戸の関連施設を確認する目的で実施した。また、賀茂御祖神社所蔵の江戸時代の絵図に描かれている、小川西岸の小道の確認も併せて調査を実施した。

調査区は、調査に先立ち調査区内の樹木を移植した後、島南部の井戸を中心に1区、小川西岸に2区を設定した。

1区は盛土および旧調査区の埋土を排土し、井戸成立面まで掘り下げて精査を行ったが、井戸の関連遺構は検出できなかった。そのため、史跡賀茂御祖神社境内整備委員会の京都府教育庁指導部文化財保護課・京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課から、井戸西側の状況確

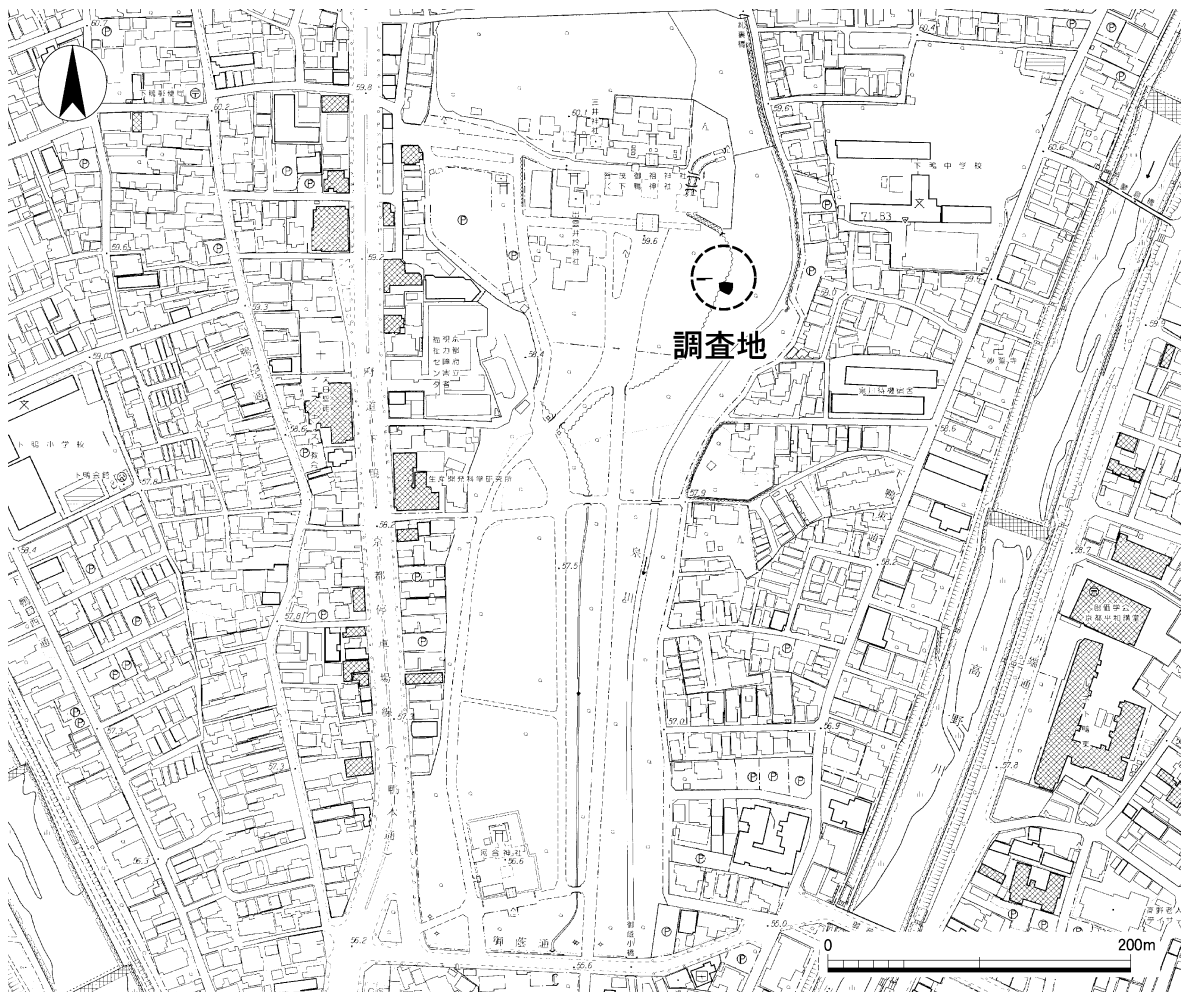


図1 調査位置図 (1 : 5,000)

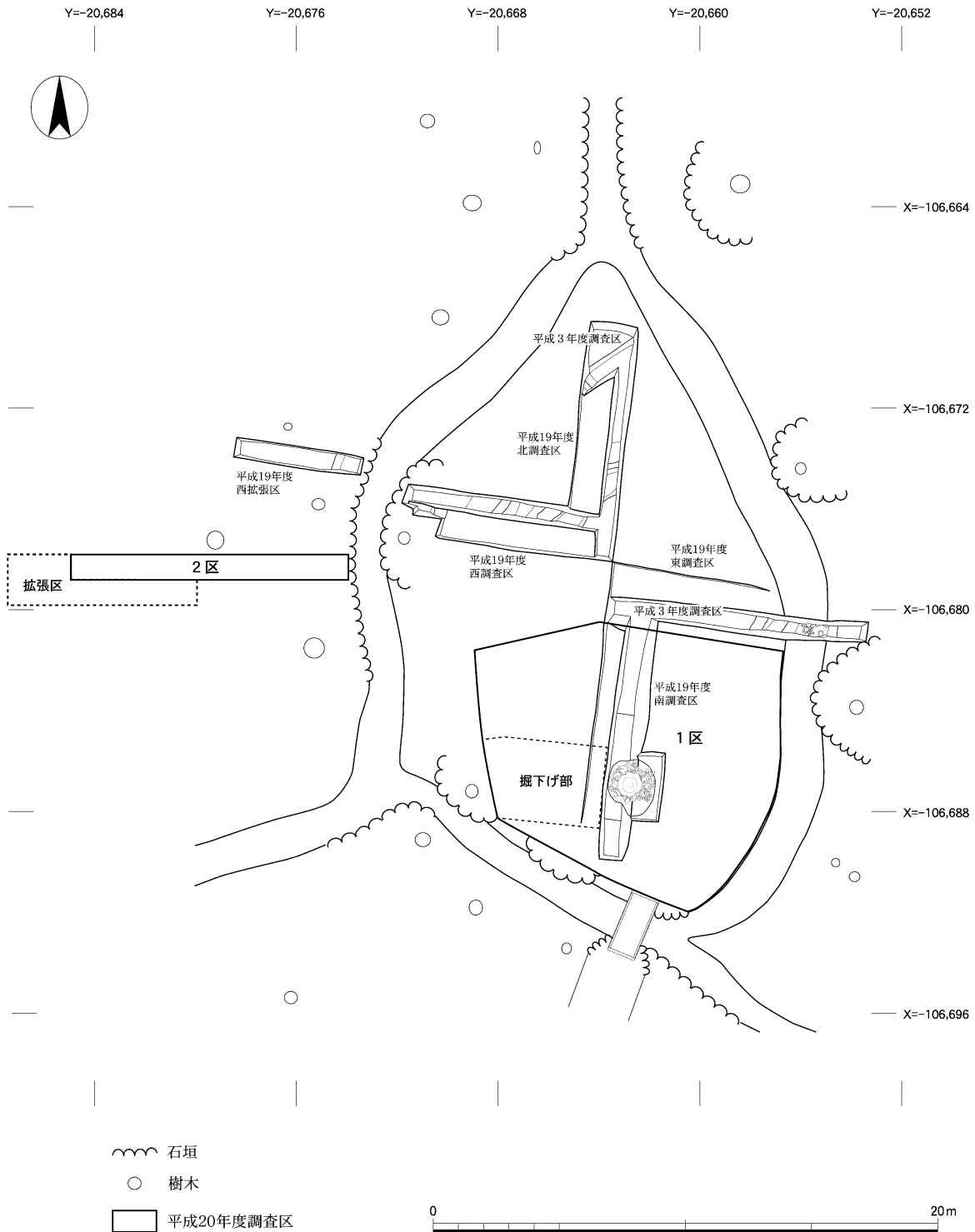


図2 調査区配置図（1：250）

認のため2 m×3 mの範囲を深さ1 mまで掘削して調査する指導を受けた。調査の結果、表土下0.6 mの地点で0.1～0.3 m大の石が多量に検出された。これらの石の範囲と性格を明らかにするため、さらに西側へ拡張した。その結果、平安時代後期に島を形成する盛土の中に入れられた石であることがわかった。また、南東側の断割りでは落込みを検出した。

2区では調査区西端の表土下0.05～0.1 mで小礫と土を締めた面が検出された。検出状況から



図3 調査前全景（東から）



図4 調査風景（南東から）

路面と考えられた。京都府・京都市文化財保護課の指導を受けて、道の範囲と方向を確認するため西・南側へ拡張を行った。その結果、北東から南西方向の路面であることがわかった。

調査後、史跡賀茂御祖神社境内整備委員会の指示で検出遺構・遺構面は保存のため砂と土嚢で養生を行い、埋戻しを行った。

## 2. 遺 構

### (1) 層序

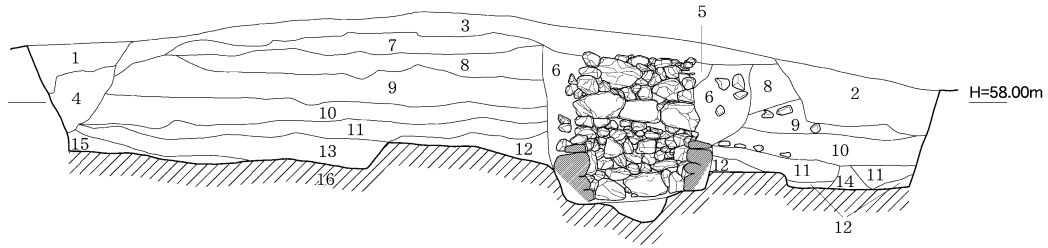
今回の調査は、江戸時代の井戸関連遺構と小道の確認が目的のため、地山（無遺物層）まで調査が達していない。そのため基本層序としては一部断割り調査を行った面までの記述にとどまる。

1区の基本層序は、地表下～0.1 mが表土・盛土、0.1～0.3 mが黄褐色砂泥(江戸時代)、0.3～0.5 mがにぶい黄褐色泥砂(平安時代後期から鎌倉時代)、0.5～0.8 mが暗灰黄色泥砂 礫多量に含む(平安時代後期)、0.8～1.2 mが黄灰色砂泥 土師器含む(平安時代後期)、1.2～1.4 mまで黒褐色砂泥 炭・土師器多量に含む(平安時代後期、落込み状)となる。なお、地表面の標高は頂点で58.9 mである。島の表土・盛土を除けば調査範囲内では、ほぼ水平堆積である。

2区の基本層序は、地表下～0.1 mが表土・盛土、0.1～0.15 mが黒褐色泥砂(近・現代)、0.15～0.25 mが暗褐色砂礫で、上面の一部に灰黄褐色砂泥 小礫混(路面A)、0.25～0.3 mが灰黄褐色砂泥 小礫混(路面B)、0.3～0.4 mまでがにぶい黄褐色粗砂 土師器含む(平安時代後期)となる。なお、地表面の標高は頂点で59.1 mである。

表1 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
平安時代後期	落込み4、整地層	
江戸時代後期	SX2、道3	



- |                        |                           |
|------------------------|---------------------------|
| 1 攪乱                   | 9 2.5Y4/6オリーブ褐色泥砂         |
| 2 攪乱                   | 10 2.5Y5/2暗灰黄色泥砂 礫混       |
| 3 10YR5/2灰黄褐色砂泥 (盛土)   | 11 2.5Y4/1~5/1黄灰色砂泥 礫混    |
| 4 10YR4/2灰黄褐色砂泥 (旧調査区) | 12 2.5Y4/4オリーブ褐色粗砂        |
| 5 2.5Y5/2暗灰黄色砂泥        | 13 2.5Y4/1黄灰色砂礫           |
| 6 2.5Y5/3黄褐色砂泥 礫混      | 14 10YR3/2黒褐色砂礫           |
| 7 2.5Y5/4黄褐色砂泥         | 15 2.5Y4/3~4/4オリーブ褐色砂礫    |
| 8 2.5Y5/3黄褐色砂泥 礫混      | 16 2.5Y5/1黄灰色砂泥 礫混 (無遺物層) |

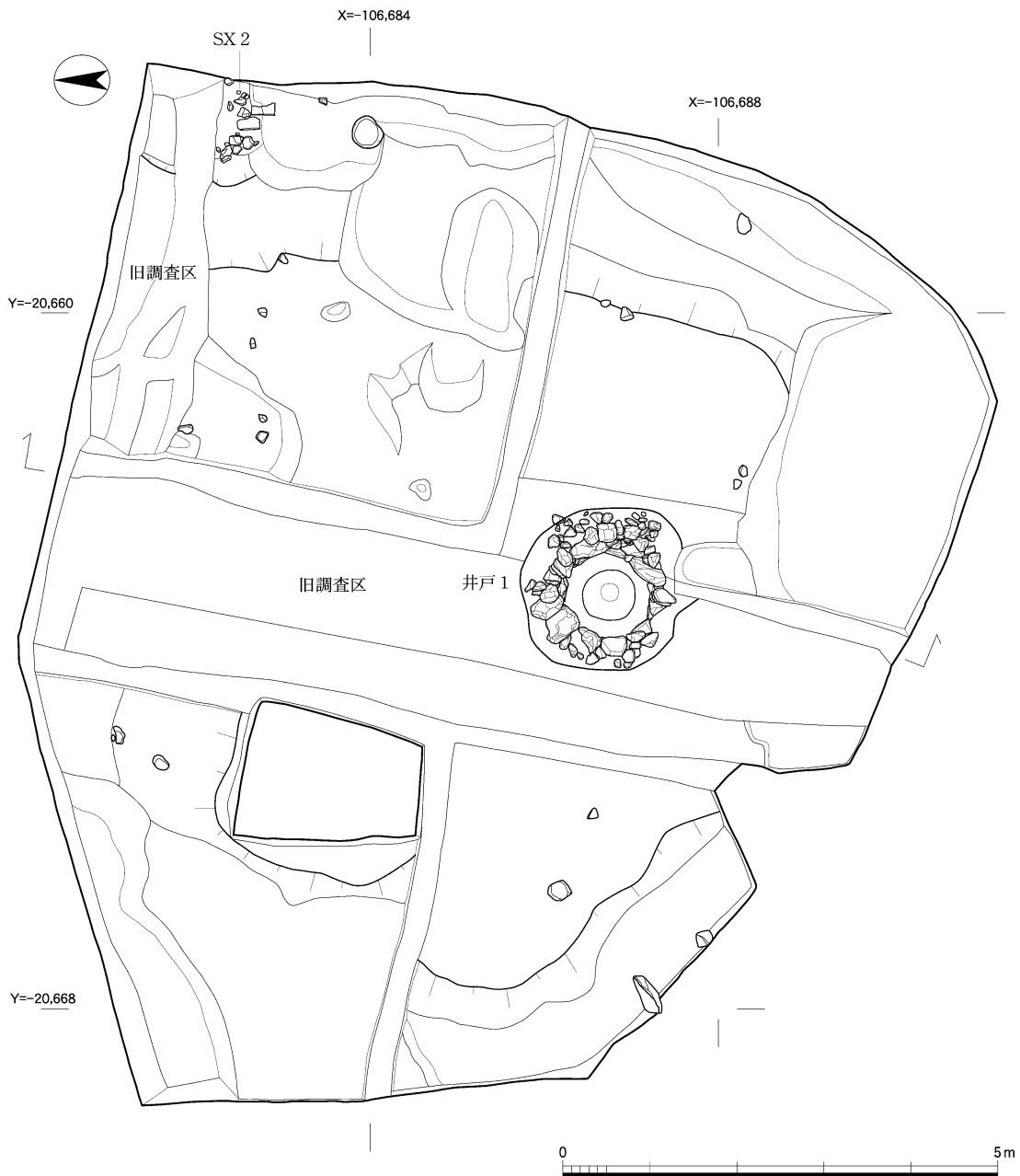


図5 1区遺構実測図 (1:80)

## (2) 遺構

### 1区

調査区の表層は樹木根痕などで攪乱されていた。

SX 2 調査区北東端の小川の西岸際斜面で検出した瓦と石を用いた階段状の遺構である。北・南・東側は攪乱を受け、残存する規模は東西0.9 m以上、南北0.7 m以上、深さ0.2 mである。埋土はオリーブ褐色泥砂で、熨斗瓦と15 cm大の石が入る。熨斗瓦は水平に置かれ、その西側は一段高く、その部分にも石と瓦を平坦に敷く。この上部は削平を受け、全容は不明であるが、検出範囲では階段状を

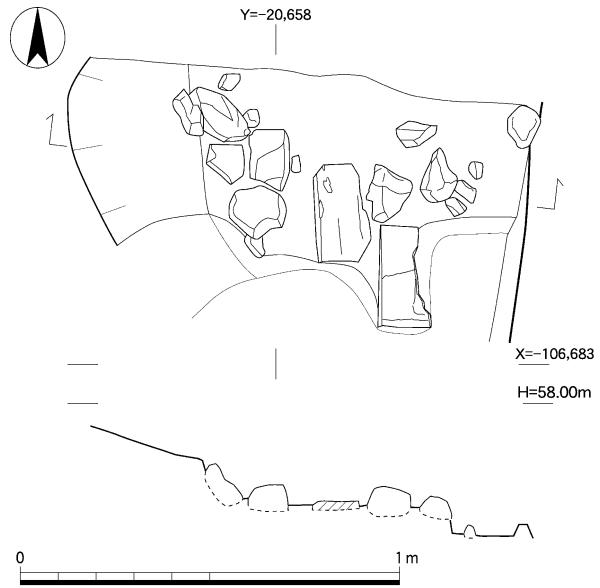
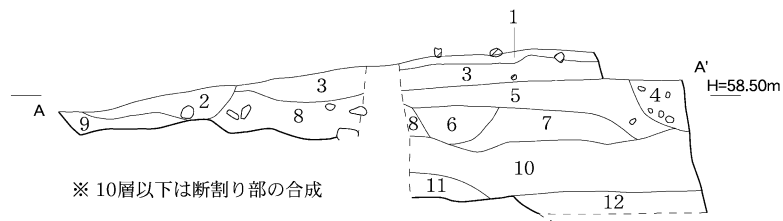


図6 SX 2実測図(1:20)



- |                          |                                   |
|--------------------------|-----------------------------------|
| 1 10YR4/2暗灰黄色砂泥          | 7 2.5Y4/2暗灰黄色泥砂 礫混                |
| 2 2.5Y3/2黒褐色砂泥砂泥 木根      | 8 10YR5/2~4/2灰黄褐色砂泥               |
| 3 2.5Y5/4黄褐色泥砂           | 9 2.5Y5/2~4/2暗灰黄色砂泥               |
| 4 2.5Y4/4オリーブ褐色砂泥 礫混     | 10 2.5Y5/1黄灰色砂泥 土師器含む             |
| 5 10YR5/3~4/3にぶい木褐色泥砂 礫混 | 11 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 礫混土師器含む       |
| 6 10YR4/2灰黄褐色砂泥 礫混       | 12 10YR3/2黒褐色砂泥 炭混・土師器多量に含む(落込み4) |

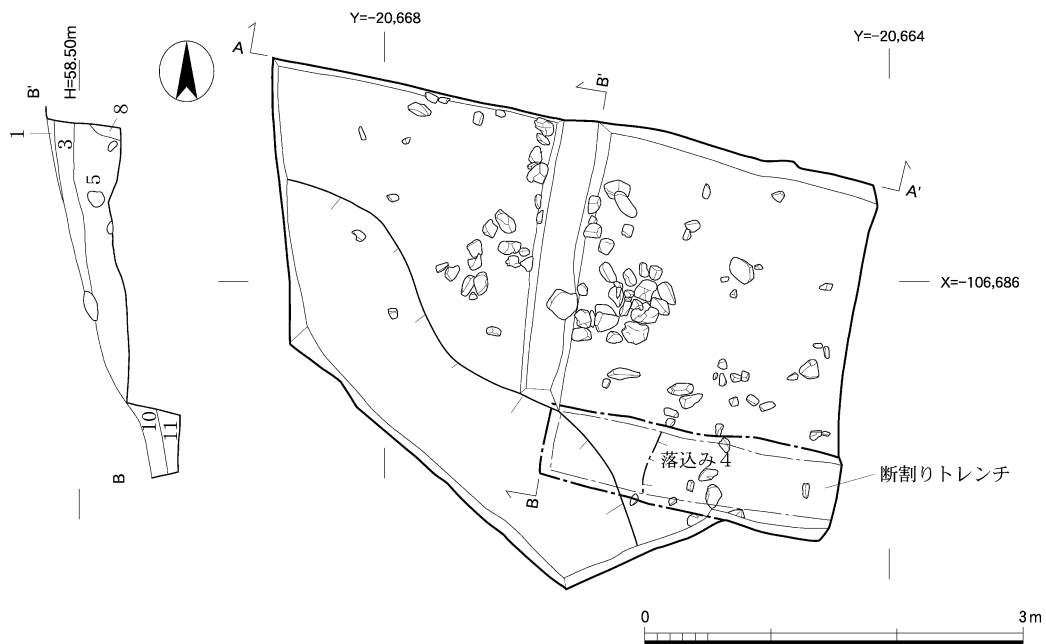


図7 1区掘下げ部遺構実測図(1:60)

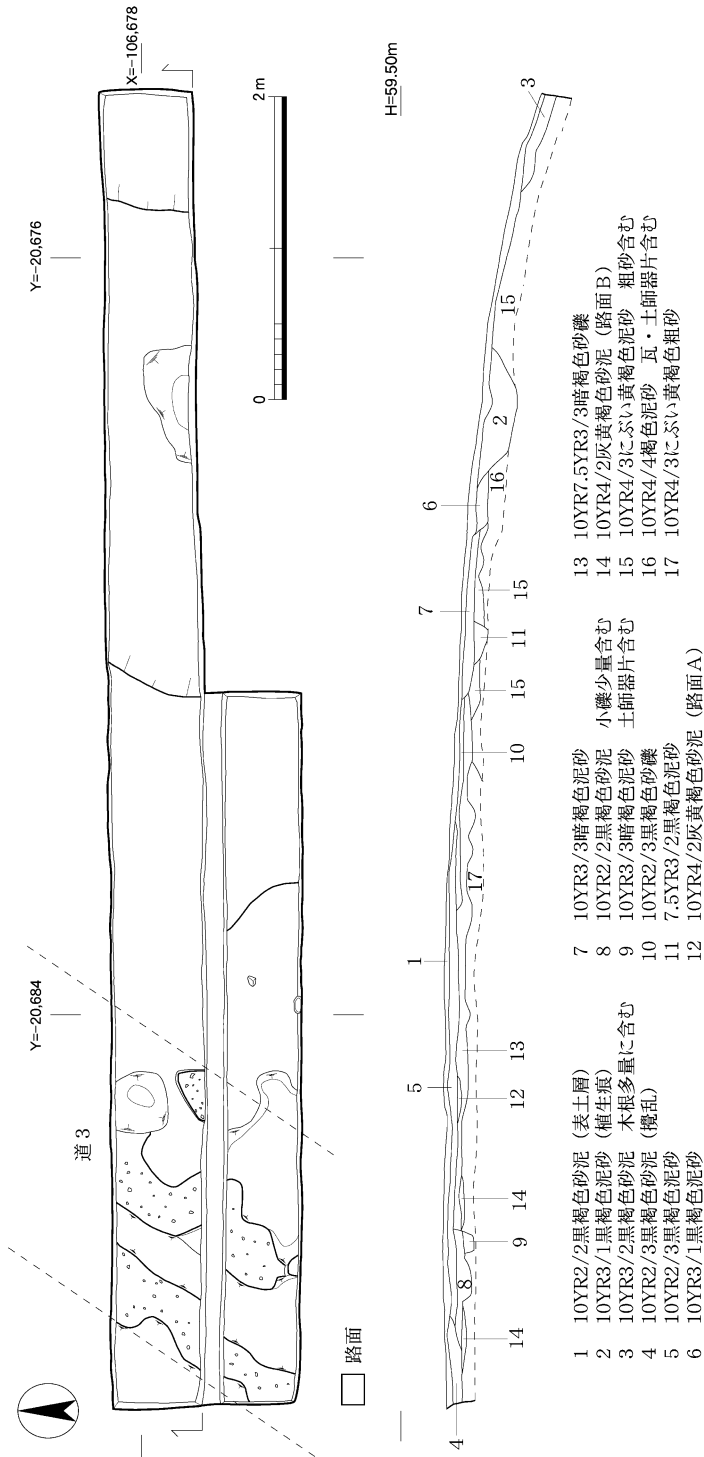


図8 2区遺構実測図 (1:50)

成される。各路面上には白砂が蒔かれていた。出土遺物から江戸時代後期と考えられる。

呈している。江戸時代の瓦が出土した。

平安時代後期整地層 井戸西側の掘下げ部の表土下0.5～0.8mで多量に石が混入する暗灰黄色泥砂層を検出した。この層の下面は石が集中しているところが認められた。西側へ拡張して精査した結果、石の集中はランダムで、意図的に集石されたものではなく島の盛土に混入されたものと考えられる。

落込み4 掘下げ部の南東側については東西2.2m、幅0.5mの範囲で断割調査を行った。表土下0.12mで東へ下る落込み4の西肩を検出した。部分的な断割りのため全容は不明ではあるが、平成19年度調査の南調査区断面(32層)から推定すると、南北3.3m以上、東西1.6m以上、深さ0.3mである。埋土は黒褐色砂泥で炭と平安時代後期の土師器が多量に含まれていた。

## 2区

道3 小川西岸から12.4m地点の調査区西半部で路面を2面検出した。路面の規模は幅約2.7mで、方向は北東から南西である。層序は下層の路面Bの上に5cm程の小礫が堆積し、その上に路面Aが



### 3. 遺 物

出土遺物の大半は土器類で、その他は瓦類である。土器類の内訳は、平安時代後期から鎌倉時代が主で、少量の弥生時代から古墳時代前期、平安時代前期・中期、江戸時代の土器がある。瓦類も平安時代後期から鎌倉時代が主で、その他平安時代中期、江戸時代以降の瓦である。

#### (1) 土器類 (図9、図版4)

##### 弥生時代末から古墳時代前期

1は甕の底部で、中央部がわずかに窪む平底である。胎土は砂粒を多く含み軟質で、色調は浅黄橙色である。

##### 平安時代から鎌倉時代

土師器の皿が多く、次に白色土器、その他に須恵器、灰釉陶器、白磁などが少量出土した。2は須恵器杯、3は須恵器鉢、4は灰釉陶器椀、5～9は土師器皿A、10～15は土師器皿Ac、16～33は土師器皿Nで口径の大きさが9～12cm台、15～16cm台、17～18cm台の3群に分かれる。34は白色土器高杯、35～37・40は白色土器皿、38・39は白色土器台付き皿、49は白色土器皿である。34～40・49の白色土器は洛北幡枝産である。41は輸入白磁皿である。

42は土師器皿Ac、43～48は土師器皿Nである。

##### 江戸時代

土師器、施釉陶器、染付などが出土した。50・51は土師器皿Nrである。

ここで示した土師器皿の中で5・20以外は、すべてが前調査(平成19年度)でも指摘しているように平安京跡で出土する土師器皿と技法・形態などの類似性は認められるが、しかし京域のものとは異にしている土師器が多く出土している。

表2 遺物概要表

時 代	内 容	コンテナ 箱数	Aランク点数	Bランク 箱数	Cランク 箱数
弥生時代 ～古墳時代	土師器	1箱	土師器1点	1箱	0箱
平安時代 ～鎌倉時代	土師器、須恵器、白色土器、灰釉陶器、輸入白磁、瓦	8箱	土師器36点、須恵器2点、白色土器8点、灰釉陶器1点、輸入白磁1点、軒丸瓦2点、軒平瓦5点	7箱	0箱
江戸時代後期	土師器、染付磁器、瓦	1箱	土師器2点、軒丸瓦1点、軒平瓦1点	1箱	0箱
合 計		10箱	60点(1箱)	9箱	0箱

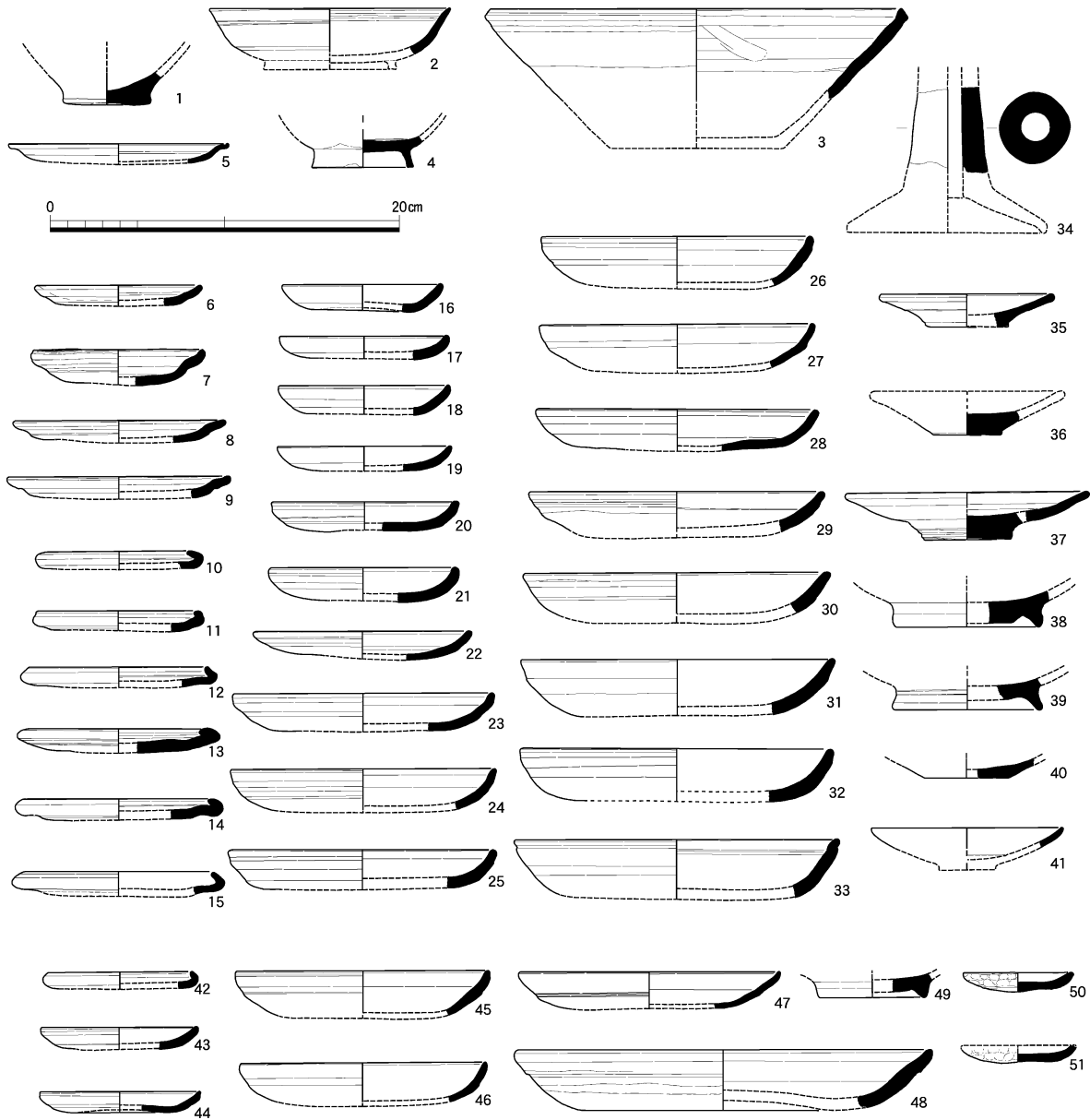


図9 土器実測図（1：4）

（2）瓦類（図10、図版4）

瓦類には平安時代中期・後期、鎌倉時代、江戸時代の軒瓦と瓦がある。

52は蓮華文軒丸瓦である。楕円形で版入れが浅く、磨滅している。複弁6葉で蓮子は不明。連珠文を配する。胎土はやや軟質で砂粒が入る。2区1層出土。

53は巴文軒丸瓦である。巴は右巻きで頭部は接しない。縁部は欠損する。胎土は砂粒を含み軟質である。2区1層出土。

54は菊文軒丸瓦である。単弁8葉で蓮弁は接する。弁央は盛り上がる。胎土はやや硬質である。1区SX2出土。

55は唐草文軒平瓦である。著しく磨滅しており文様の判別は困難ではあるが、唐草文は複線で

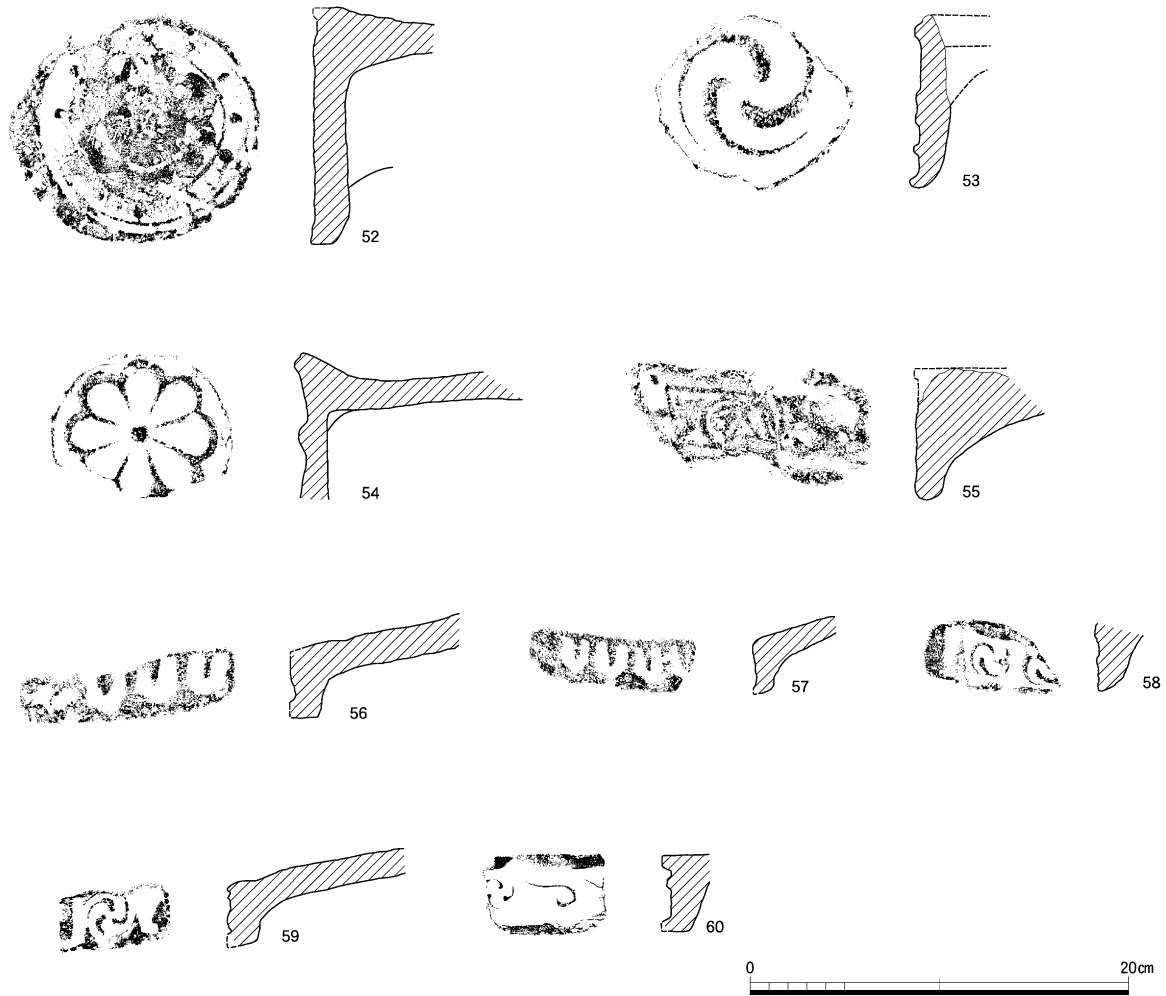


図10 軒瓦拓影・実測図(1:4)

強く巻き込む。外区は珠文が巡る。胎土は砂粒を含みやや軟質である。1区旧調査区出土。

56は剣頭文軒平瓦である。瓦当は半折り曲げ。右2列の弁は細く、左側は太い。胎土は軟質で砂粒が入る。1区旧調査区7層出土。

57は剣頭文軒平瓦である。瓦当は半折り曲げ。剣頭文の大きさは不揃いである。胎土は軟質で砂粒が入る。1区掘下げ部6層出土。

58は巴文軒平瓦である。瓦当は半折り曲げ。右巻き三巴文を配する。胎土は軟質で砂粒が入る。1区2面出土。

59は剣巴文軒平瓦である。瓦当は折り曲げ。剣当文と右巻き三巴文を配する。胎土は軟質で砂粒が入る。2区1層出土。

60は唐草巴文軒平瓦である。瓦当中央に右巻き三巴文、右には唐草文が配される。胎土は硬質である。1区SX2出土。

表3 土器観察表

番号	器種・器形	出土地点遺構	口径(推定)	器高(推定)	技法・形態・摘要	推定時期	備考
1	土師器甕(底部)	1区旧調査区西壁13層	底径(5.1)		中央がわずかに窪む平底	弥生時代末 ～古墳時代初頭	
2	須恵器杯B	1区2面	13.8		粘土組まき上げ後ロクロ成形・調整、体部下丸つよく、口縁部端反気味、高台付く	平安時代前期	畿内系
3	須恵器鉢	1区掘下げ部7層	24.2		粘土組まき上げ後ロクロ成形・調整、端部が若干発達の变形	平安時代前期	畿内系
4	灰釉陶器椀	1区掘下げ部7層	高台径(5.8)		ロクロ成形、貼り付け高台、つけがけ施釉	平安時代中期初	美濃・尾張
5	土師器皿	1区掘下げ部6層	12.6	(1.2)	手づくね、薄手化、口縁部の外反度強くなっている	平安時代中期初	京城主流
6	土師器皿	1区落込み4	9.6	(1.2)	手づくね、体部外面下段のナデによる凹み明瞭、端部肥厚していない	平安時代後期	RHL類A
7	土師器皿	1区掘下げ部6層	10.0	(2.0)	手づくね、Ⅳ期中～Ⅴ期古Aに近似、細部に異差	平安時代中期末 ～後期前半	RHL類A
8	土師器皿	1区旧調査区	12.2	(1.3)	手づくね、Ⅳ期Aに近似、細部に異差	平安時代中期末 ～後期前半	RHL類A
9	土師器皿	1区旧調査区	12.8	(1.4)	手づくね、Ⅳ期Aに近似、細部に異差	平安時代中期末 ～後期前半	RHL類A
10	土師器皿	1区旧調査区	最大径(9.6)	(1.0)	手づくね、Ⅴ期中～新Acに類似	平安時代後期	RHL類Ac
11	土師器皿	1区旧調査区	最大径(9.8)	(1.1)	手づくね、Ⅴ期古～新Acに近似、口縁部形態に異差	平安時代後期前半	RHL類Ac
12	土師器皿	1区旧調査区	最大径(10.2)	(1.2)	手づくね、Ⅳ期新～Ⅴ期古Acに類似	平安時代中期末 ～後期前半	RHL類Ac
13	土師器皿	1区遺構5層	最大径(11.6)	(1.4)	手づくね、Ⅴ期古～中Acに近似、細部に異差	平安時代後期前半	RHL類Ac
14	土師器皿	1区旧調査区	最大径(11.9)	(1.2)	手づくね、Ⅳ期新～Ⅴ期古Acに近似、細部に異差	平安時代中期末 ～後期前半	RHL類Ac
15	土師器皿	1区旧調査区	最大径(12.2)		手づくね、Ⅳ期新～Ⅴ期古Acに類似	平安時代中期末 ～後期前半	RHL類Ac
16	土師器皿	1区旧調査区	(9.2)	(1.5)	手づくね、Ⅴ期新～Ⅵ期古N(小)に近似	平安時代末期 ～鎌倉時代初	RHL類N
17	土師器皿	1区旧調査区	(9.7)	(1.3)	手づくね、Ⅴ期中～新N(小)に近似	平安時代後期中葉	RHL類N
18	土師器皿	1区旧調査区	9.8	(1.6)	手づくね、Ⅴ期中～新N(小)に近似	平安時代後期中葉	RHL類N
19	土師器皿	1区落込み4	10.0	(1.4)	手づくね、Ⅴ期古～中N(小)に近似	平安時代後期前葉	RHL類N
20	土師器皿	1区旧調査区	10.7	(1.6)	手づくね、Ⅴ期古N(小)に類似	平安時代後期前葉	RHL類N
21	土師器皿	1区旧調査区	10.9	(1.9)	手づくね、Ⅴ期古～中N(中)に近似	平安時代後期前半	RHL類N
22	土師器皿	1区掘下げ部断面6層	12.6	(1.6)	手づくね、Ⅴ期古～N(中)に近似	平安時代後期前葉	RHL類N
23	土師器皿	1区旧調査区	15.0	(2.2)	手づくね、Ⅴ期古～中N(大)に近似	平安時代後期前半	RHL類N
24	土師器皿	1区旧調査区	15.2		手づくね、Ⅴ期古N(大)に近似	平安時代後期前葉	RHL類N
25	土師器皿	1区旧調査区西壁7層	15.4	(2.3)	手づくね、Ⅴ期古～中N(大)に近似	平安時代後期前半	RHL類N
26	土師器皿	1区掘下げ部7層	15.6	(3.0)	手づくね、Ⅴ期中～新N(大)に近似	平安時代後期後半	RHL類N
27	土師器皿	2区路面直上	15.8		手づくね、Ⅴ期の洛北在地系	平安時代後期	RHL類N
28	土師器皿	1区旧調査区西壁7層	16.2	(2.4)	手づくね、Ⅴ期中～新N(大)に近似	平安時代後期後半	RHL類N
29	土師器皿	1区旧調査区西壁7層	17.0		手づくね、Ⅴ期の洛北在地系	平安時代後期	RHL類N
30	土師器皿	1区旧調査区	17.6		手づくね、Ⅴ期の洛北在地系	平安時代後期	RHL類N
31	土師器皿	1区掘下げ部7層	18.0	(2.6)	手づくね、Ⅴ期の洛北在地系	平安時代後期	RHL類N
32	土師器皿	1区旧調査区西壁7層	18.0	(3.0)	手づくね、Ⅴ期古～中N(大)に近似	平安時代後期前半	RHL類N
33	土師器皿	1区掘下げ部7層	18.6	(3.4)	手づくね、Ⅴ期古～中N(大)の模倣	平安時代後期前半	RHL類N
34	白色土器高杯(脚部)	1区旧調査区西壁7層			丸棒に粘土まきつけ成形、外面取不明瞭、白(褐)色	平安時代後期	洛北幡枝産
35	白色土器皿	1区旧調査区	10.0	1.9	ロクロ成形、白(褐)色、平高台	平安時代後期	洛北幡枝産
36	白色土器皿	1区旧調査区			ロクロ成形、白(褐)色、平高台、底部外面に一部糸切り痕のこる	平安時代後期	洛北幡枝産
37	白色土器皿	1区旧調査区	14.0 底径(5.0)	(2.7)	ロクロ成形、白(褐)色、平高台、底部外面に一部糸切り痕のこる	平安時代後期	洛北幡枝産
38	白色土器皿	1区旧調査区	高台径(8.6)		ロクロ成形、白(褐)色、貼り付け高台	平安時代後期	洛北幡枝産
39	白色土器皿	1区旧調査区西壁7層	高台径(8.6)		ロクロ成形、白(褐)色、貼り付け高台	平安時代後期	洛北幡枝産
40	白色土器皿	1区旧調査区	底径(4.8)		ロクロ成形、白(褐)色、平高台	平安時代後期	洛北幡枝産
41	輸入白磁皿	1区落込み4	11.0		平高台	平安時代後期	中国華南
42	土師器皿	1区旧調査区	8.8	(1.0)	手づくね、Ⅵ期古～中Acに近似	鎌倉時代前半	RHL類Ac
43	土師器皿	1区旧調査区	9.0	(1.3)	手づくね、Ⅵ期古～中N(小)に近似	鎌倉時代前半	RHL類N
44	土師器皿	1区落込み4	9.1	(1.2)	手づくね、Ⅵ期古～中N(小)に近似、底部上げ底タイプ	鎌倉時代前半	RHL類N 小ヤツサカ
45	土師器皿	1区掘下げ部7層	14.6	(2.7)	手づくね、Ⅵ期古～中N(大)に近似	鎌倉時代前半	RHL類N
46	土師器皿	1区落込み4	14.2	(2.5)	手づくね、Ⅵ期古～中N(大)に近似	鎌倉時代前半	RHL類N
47	土師器皿	1区旧調査区西壁7層	15.0	(2.1)	手づくね、Ⅵ期古～中N(大)に近似	鎌倉時代前半	RHL類N
48	土師器皿	1区旧調査区	24.0	(3.5)	手づくね、Ⅵ期古～中N(大)に近似、口縁部形状45に類似、底部上げ底タイプ	鎌倉時代前半	RHL類N 大ヤツサカ
49	白色土器皿	1区旧調査区西壁7層	底径(5.3)		ロクロ成形、貼り付け高台、高台断面三角形化、色調褐色化	鎌倉時代前半	洛北幡枝産
50	土師器皿	2区5層	6.3	1.1	手づくね、内面ナデ、外面掌圧痕残る、Nrに類似	江戸時代	RHL類
51	土師器皿	2区5層	6.6	(1.0)	手づくね、内面ナデ、外面掌圧痕残る、Nrに類似	江戸時代	RHL類

※ RHL類：洛北在地系

## 4. ま と め

1区(船島)は平成19年度調査で検出した井戸に関連する遺構の確認を調査目的として実施したが、そうした遺構は認められなかった。しかし、島の東際で、熨斗瓦と石で階段状を呈する江戸時代のSX2を検出した。このSX2は井戸と同時代であることから何らかの関連施設とも考えられる。

下層の断割り調査で検出した埋土に炭や土師器類が多量に含まれた落込み4は、神社の神事に関係した何らかの遺構の可能性が考えられる。なお、この落込み4と同じ形態の遺構は、平成13年度に行った奈良の小川1次調査の石組遺構下層でも検出されている。

また、京内のものとはやや様相の異なる土師器類が多量に出土していることから、これらの土器類は、神社周辺を含む地で生産され、専用の器として神社へ供給されたものと考えられる。

さらに、船島や奈良の小川周辺の調査から出土した平安時代後期から鎌倉時代の遺物は全出土遺物の3分の2も占めていることは注目される。

2区で検出した路面は、賀茂御祖神社が所蔵する江戸時代の絵図「賀茂祭舗設図」(図11)に描かれている小道と位置や方向などが一致しており、絵図に描かれた道であることが明らかとなった。絵図資料が調査で検証ができたことの意義は大きい。

### 参考文献

- (財) 糺の森顕彰会「奈良の小川・瀬見の小川発掘調査の報告会」『会報』第14号 1990年  
宗教法人賀茂御祖神社『史跡賀茂御祖神社境内(糺の森)発掘調査報告』1992年  
(財) 糺の森顕彰会「奈良の小川・瀬見の小川発掘調査の報告会 第2報」『会報』第16号 1992年  
津々池惣一・櫻井みどり『史跡賀茂御祖神社境内』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-12 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2003年  
櫻井みどり『史跡賀茂御祖神社境内』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-12 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2005年  
近藤奈央『史跡賀茂御祖神社境内』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-15 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2006年  
平尾政幸『史跡賀茂御祖神社境内』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-19 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2008年  
財団法人京都市埋蔵文化財研究所『坂東善平収蔵目録』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1981年  
財団法人京都市埋蔵文化財研究所『木村捷三郎収集瓦図録』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年  
吉村正親・本弥八郎『栗栖野瓦窯発掘調査概報』平成4年度 京都市文化観光局 1993年  
(財) 糺の森顕彰会『鴨社古図展』1985年  
四手井網英編『下鴨神社 糺の森』ナカニシ出版 1993年

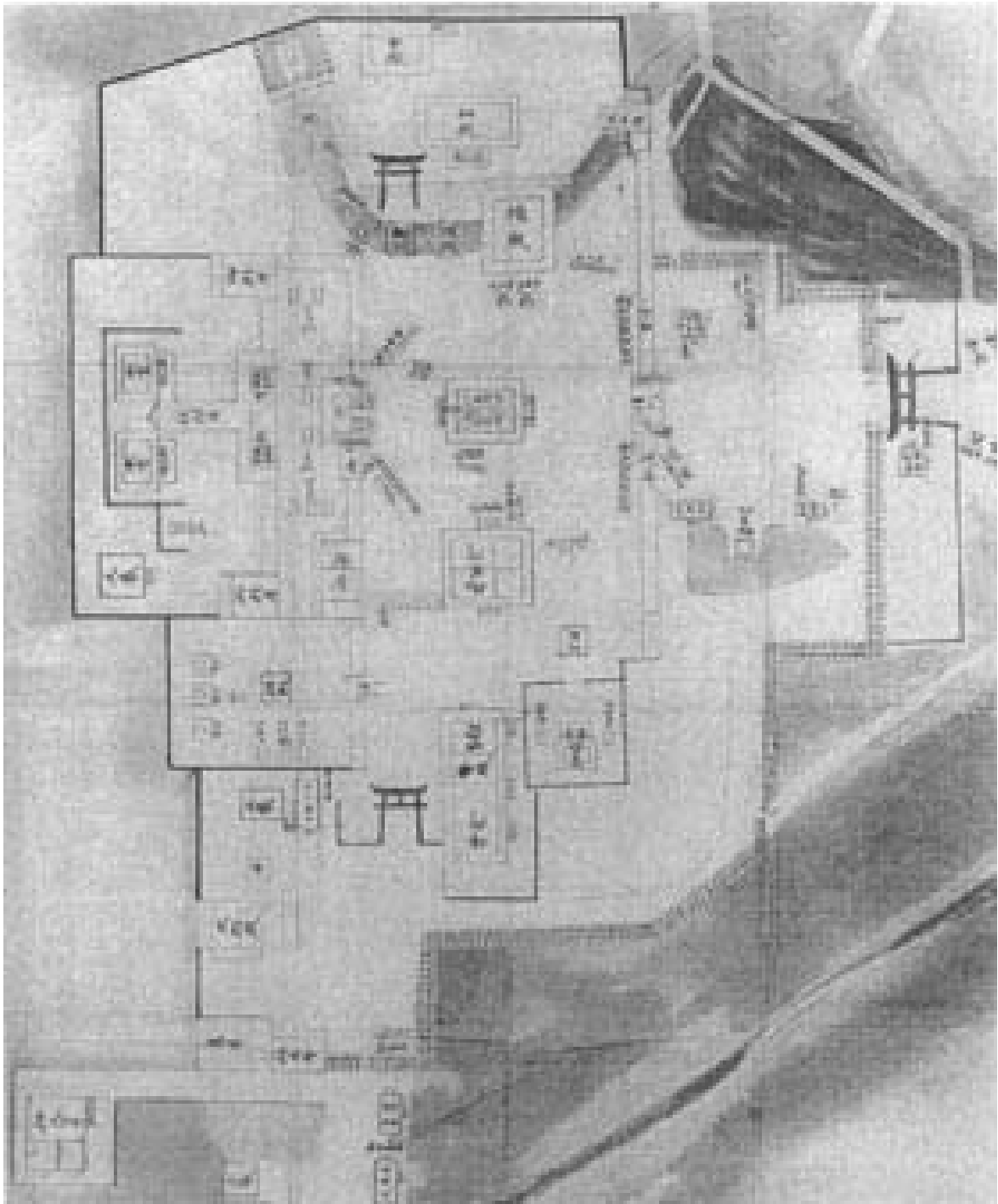


图 11 「賀茂祭舗設図」(江戸時代) 賀茂御祖神社所蔵

# 版 图





# 報 告 書 抄 録

ふりがな	しせきかもみおやじんじゃけいだい							
書名	史跡賀茂御祖神社境内							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2008-15							
編著者名	小松武彦							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2009年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しせきかもみおや 史跡賀茂御祖 じんじゃけいだい 神社境内	きょうとしききょうく 京都市左京区 しもがもいずみかわちょう 下鴨泉川町  ちない 地内	26100	A309	35度 01分 12秒	135度 46分 25秒	2008年10月 28日～2008 年12月17日	121m <sup>2</sup>	整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
史跡賀茂御祖 神社境内	史跡	平安時代後期	落込み、整地層	土師器、白色土器、瓦				
		江戸時代後期	土坑、道	土師器、瓦				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2008-15  
史跡賀茂御祖神社境内

発行日 2009年3月31日

編集 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

発行 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265 番地の 1

住所

〒 602-8435 TEL 075-415-0521

<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町 298 番地

〒 604-0093 TEL 075-256-0961